

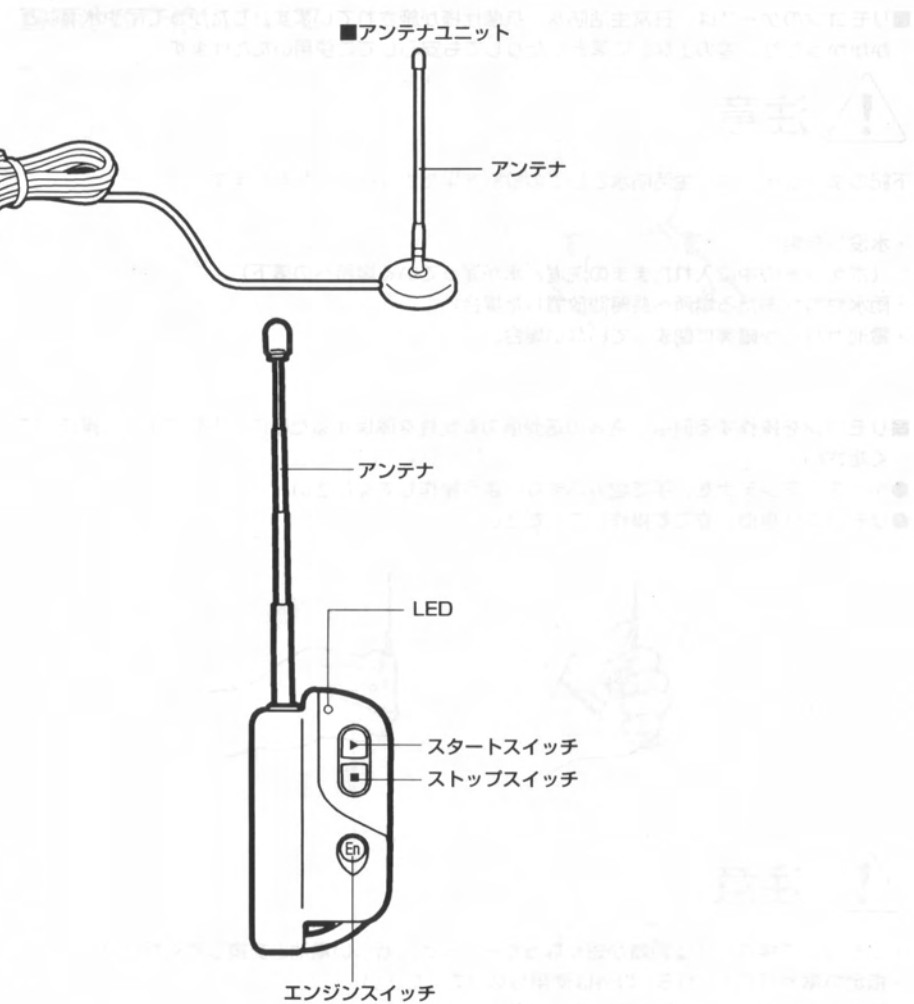
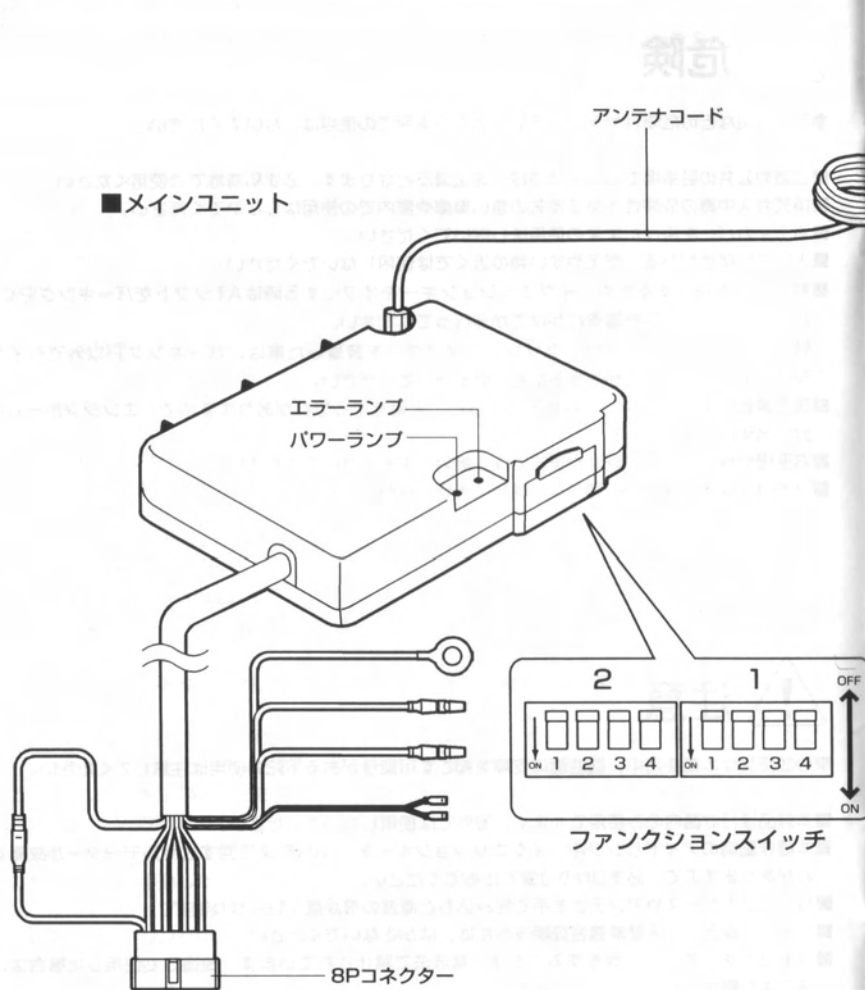
# BeTime A-01

## 取扱説明書／保証書

このたびは、「BeTime A-01」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

●主な特長	1
●使用上の注意	2
●各部の名称	3
●リモコンについて	5
●確認について	
・テストモードでの確認	7
・動作の確認	8
●操作について	
・エンジンを始動させる	9
・エンジンを停止させる	10
・運転する時は	11
●セットについて	
・ターボタイマーの設定方法	12
・アイドルリング時間の変更方法	13
●リモコンを紛失または破損した場合	15
●配線システム図	16
●故障かな?と思ったら	17
●仕様	19
●保証書	

# 各部の名称



# リモコンについて

■リモコンのケースは、日常生活防水、抗菌仕様が施されています。したがって雨や水滴などがかったり、雪の上などに落としたりしても安心してご使用いただけます。



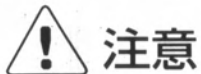
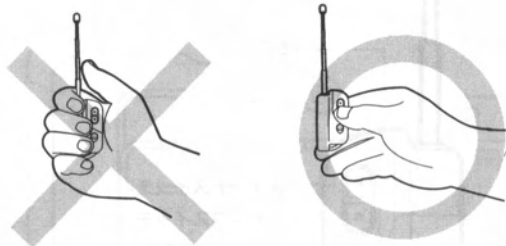
## 注意

下記のような場合は、生活防水としての役割を果たさないことがあります。

- ・水没した場合。  
(ポケットの中に入れたままの洗濯、水が溜っている場所への落下)
- ・雨水や雪が当たる場所へ長時間放置した場合。
- ・電池カバーが確実に閉まっていない場合。

■リモコンを操作する時は、電波の送受信の安定性を確保するために、下記のように操作してください。

- ケースやアンテナを、手で包み込まないよう操作してください。
- リモコンは垂直に立てて操作してください。



## 注意

- ・リモコンで操作できる距離が短くなったら、早めに新しい電池と交換してください。
- ・指定の電池 (CR2016) 以外は使用しないでください。
- ・電池寿命の目安は、1日2回の操作で約1年です。

※使用する条件によって異なります。

## ■電池の交換について

電池の交換は、右図の手順にしたがって+、-の向きをまちがえないよういれてください。

1. 電池カバーをコイン等で開けます。



2. 新しい電池 (CR2016) を、2個とも+を上にして入れます。



3. 電池カバーをコイン等で閉めます。

※電池カバーを確実に閉めないと、生活防水としての役割を果たさない場合があります。



# 確認について

## ■テストモードでの確認

テストモードでは、安全機能が正常に動作するかをパワーランプで確認します。

1. ファンクションスイッチ1のNo.4をONにします。





※通常時はOFFにします。

※ファンクションスイッチ2は使用しません。

2. イグニッションキーを回しONにします。

※エンジンは始動せず、メーターパネルに警告灯が点灯している状態。

3. 下記の表にしたがって、各項目を確認します。

確認項目	スイッチの状態		操作手順及び確認方法
ATシフト ストップ回路 の確認	No.1	ON	①ファンクションスイッチ1を左記の状態にします。 ②ATシフトレバーをパーキング (P) またはニュートラル (N) から他のポジションへ移動します。  ・メインユニットのパワーランプ (緑) が点滅すれば正常です。
	2	OFF	
	3	OFF	
	4	ON	
フット ブレーキ ストップ回路 の確認 (配線時のみ)	No.1	OFF	①ファンクションスイッチ1を左記の状態にします。 ②ATシフトレバーがパーキング (P) であるか確認し、フットブレーキを踏みます。  ・メインユニットのパワーランプ (緑) が点滅すれば正常です。
	2	ON	
	3	OFF	
	4	ON	
L端子配線 検出の確認 (配線時のみ)	No.1	OFF	①ファンクションスイッチ1を左記の状態にします。 ②イグニッションキーを回しエンジンを始動します。  ・メインユニットのパワーランプ (緑) が点滅すれば正常です。
	2	OFF	
	3	ON	
	4	ON	
ボンネット センサー回路 の確認 (オプション設定)	No.1	ON	①ファンクションスイッチ1を左記の状態にします。 ②ボンネットを開けます。  ・メインユニットのパワーランプ (緑) が点滅すれば正常です。
	2	ON	
	3	OFF	
	4	ON	

## ■動作の確認

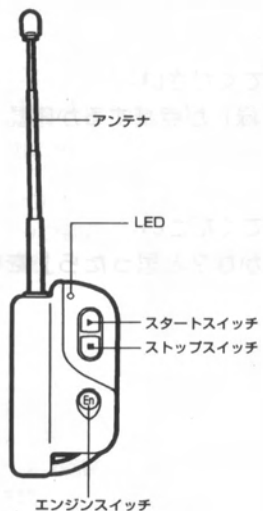
1. イグニッションキーを抜きます。
  2. ファンクションスイッチ1のNo.4をOFFにします。
  3. ATシフトレバーがパーキング [P] で、パーキングブレーキが確実にかかっているか確認します。
  4. リモコンでエンジンを始動させます。  
※リモコンの操作方法は「操作について」を参照してください。
  5. アイドリング中、メインユニットのパワーランプ (緑) が点滅するか確認します。
  6. リモコンでエンジンを停止させます。  
※リモコンの操作方法は「操作について」を参照してください。
- 上記の4、5で動作がうまくいかない場合は、「故障かな?と思ったら」を参考にしてください。



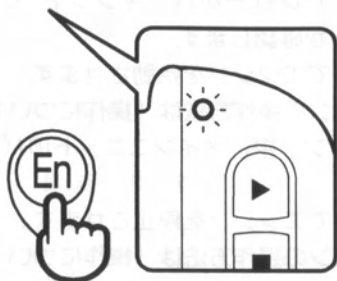
# 操作について

## ■リモコンでエンジンを始動させる

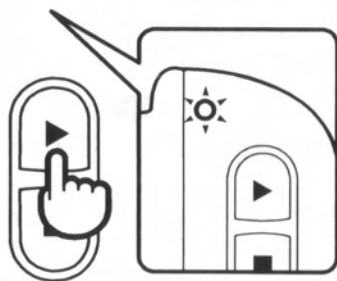
リモコンを操作するときは、アンテナを十分に伸ばしてください。



1. エンジンスイッチをLED が点滅するまで押します。



2. LED が点滅中に、スタートスイッチを押します。



※LED が点滅から、点灯に変わり電波が送信されます。

3. 車の電源が入り、約5秒後にエンジンを始動させます。

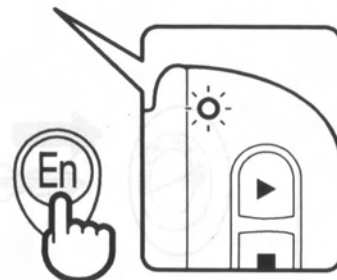
※本機が「エンジン始動」と判断した時点でセルを止めません。(最大2.5秒回します)

※アイドリング時間の初期設定は10分です。変更したい場合は、「アイドリング時間の変更方法」を参照してください。

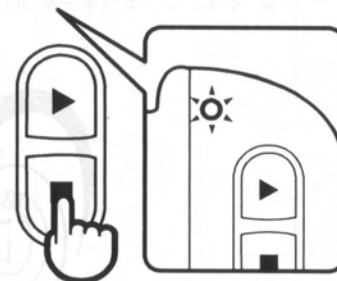
## ■リモコンでエンジンを停止させる

リモコンを操作するときは、アンテナを十分に伸ばしてください。

1. エンジンスイッチをLED が点滅するまで押します。



2. LED が点滅中に、ストップスイッチを押します。



※LED が点滅から、点灯に変わり電波が送信されます。

3. エンジンが停止します。

※車から発生するノイズの影響で、エンジンを始動させる時に比べ停止させる時の方が通信距離が短くなる場合があります。

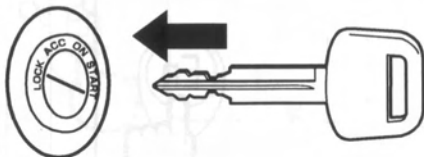
### ●リトライ機能

1回目で始動できなかった場合、自動で最大2回まで再始動を行います。(2回目以降のグロー時間は2秒です)

## ■運転する時は

リモコンでエンジンを始動した際は、下記の操作を行ってください。

1. イグニッションキーを差し込みます。



2. イグニッションキーをONまで回します。



※フットブレーキ配線時は、ブレーキを踏まずに操作してください。

※イグニッションキーをSTARTまで回すと、セルモーターが故障する恐れがありますので必ずONで止めてください。

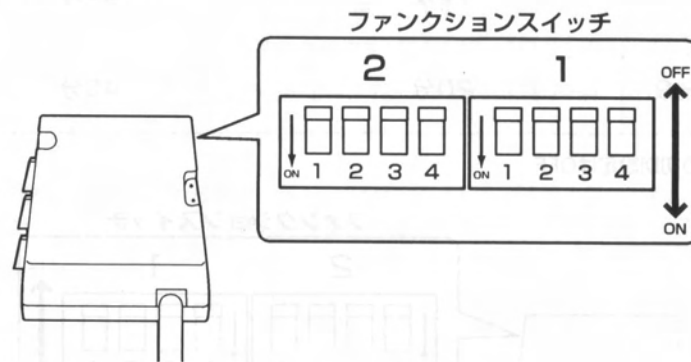
3. 通常に運転できます。

## ■ターボタイマーの設定方法

1. イグニッションキーでエンジンを始動させます。
2. メインユニットのファンクションスイッチ2を下表にしたがって設定します。

設定時間 No.	使用しない	30秒	1分	5分
3	OFF	ON	OFF	ON
4	OFF	OFF	ON	ON

※No.1～4の初期設定はOFF。



3. 設定が完了したら、イグニッションキーを抜きます。
4. アフターアイドルリングを開始します。

# セットについて

## ■アイドリング時間の変更方法

リモコンでエンジンを始動した場合、使用条件にあわせてアイドリング時間の変更をすることができます。

アイドリング時間の変更は、「ファンクションスイッチによる変更」と「メモリー登録の変更」の2通りあります。

### ●メモリーの内容

メモリー1（初期設定時）…10分/20分

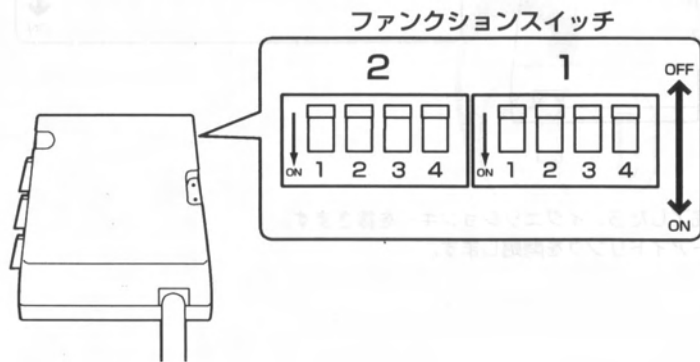
メモリー2（1から登録を変更した場合）…20分/40分

### ●ファンクションスイッチによる変更方法

メインユニットのファンクションスイッチ2を下表にしたがって設定します。

設定内容	No.2	
	OFF	ON
メモリー1	10分	20分
メモリー2	20分	40分

※No.1～4の初期設定はOFF。



## ●メモリー登録の変更方法

### 【条件】

必ず、フットブレーキ配線の接続を行ってください。

(取付け・接続説明書の「フットブレーキ配線の接続方法」を参照してください)

1. イグニッションキーを抜き、パーキングブレーキをかけてフットブレーキを踏んでいない状態にします。  
※以下フットブレーキはブレーキに略します。
2. ブレーキを踏み、3秒以内にブレーキを放します。
3. 7秒以内にイグニッションキーをACCの位置にします。
4. 2秒以上経ってからブレーキを踏み、3秒以内にブレーキを放します。
5. 7秒以内にイグニッションキーをONの位置にします。
6. 2秒以上経ってからブレーキを踏み、3秒以内にブレーキを放します。
7. 7秒以内にイグニッションキーをOFFの位置にします。
8. 30秒以内に、ブレーキを踏む/放すの動作を1回として、3回以上くりかえします。
9. 車のイグニッション電源が、10分設定時は1回、20分設定時は2回、40分設定時は4回、ON/OFFの動作を行い登録の変更が終了します。

※設定時間を、メモリー2からメモリー1にする場合も上記変更方法と同じです。

※指定した時間を経過した場合、または順番を間違えた場合は最初からやり直してください。



# 故障かな?と思ったら

症状	確認内容	対処方法
リモコンでエンジンが 始動しない ※セルを回さない場合	・専用ハーネスは車に適合していますか?	・適合した専用ハーネスをご使用ください
	・専用ハーネスは確実に接続されていますか?	・接続方法に従い、確実に接続してください
	・ATシフトレバーがパーキング(P)になっていますか?	・パーキング(P)に確実に入っているか確認してください
	・メインユニットのエラーランプが点滅していませんか?	・フットブレーキ配線の接続をしてください ・バッテリーの容量を確認してください 【キー操作では辛うじて始動するが、リモコン操作では始動できない場合があります】
リモコンでエンジンが 始動しない ※セルを回す場合	・専用ハーネスは車に適合していますか?	・適合した専用ハーネスをご使用ください
	・専用ハーネスは確実に接続されていますか?	・接続方法に従い、確実に接続してください
	・L端子配線の接続はしてありますか?	・L端子配線の接続をしてください
リモコンでエンジンが 始動しない ※L端子配線の接続をしてある場合	・エレクトロタップ及びギボシ端子は接続されていますか?	・確実に接続してください
	・車側のL端子検出線が間違っていますか?	・L端子の基準電圧を確認してください ※取付け・接続説明書の「L端子配線の接続方法」参照
リモコン操作でLEDが 点滅/点灯しない	・電池が消耗していませんか?	・新しい電池に交換してください
	・電池が正しく入っていますか?	・電池を正しく入れてください

症状	確認内容	対処方法
イグニッションキーが ON状態で、メインユ ニットのパワーランプ が点灯しない	・アース端子は、しっかり取付けしてありますか?	・確実に取付けてください
	・専用ハーネスは車に適合していますか?	・適合したハーネスをご使用ください
リモコン操作できる距 離が短い	・アンテナジャックが抜けていませんか?	・確実に差し込んでください
	・リモコンの電池が消耗していませんか?	・新しい電池に交換してください
	・アース端子は適切な場所に取付けしてありますか?	・確実にボディアースがとれる場所に取付けてください
ターボタイマーが作動 しない	・ファンクションスイッチ2の設定は大丈夫ですか?	・設定内容を確認してください ※取扱説明書の「ターボタイマーの設定方法」参照
	・フットブレーキ配線時、ブレーキを踏みながらキーを抜いていませんか?	・ブレーキから足を放してキーを抜いてください

■「故障かな?と思ったら」に従って点検/確認を行っても、なお異常がある場合は取付け販売店、または当社サービス部へお問い合わせください。

**株式会社 コムテック サービス部 TEL(05613)6-5654**

「取付け・接続説明書」「取扱説明書」にしたがって、正常な取付け・接続・使用状態で製品に故障が生じた場合は、「保証書」の保証規定にしたがって修理いたします。ただし、上記以外の取付け・接続・使用状態による車の故障や事故などの付随的傷害・損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



# BeTime A-01

## 取付け・接続説明書

はじめにこの取付け・接続説明書をすべてお読みになり、内容と手順をよくご理解いただいたから取付け作業を始めてください。

BeTime

株式会社 コムテック

愛知県西加茂郡三好町筋生下石田60番地  
サービス部 TEL05613-6-5654

## ●取付け前の注意

### ⚠ 危険

ビータイムは取付けや使用方法を誤ると事故や火災を招く恐れがあります。取付け・接続説明書の注意をよく読み、理解してから取付けてください。

- ビータイムは、ビータイム車種別専用ハーネス以外で取付けると、コードの容量不足や接続不良などによって事故や火災の原因となり危険です。必ず別売のビータイム車種別専用ハーネスで取付けてください。
- 日産AT車は、ターボタイマースタート時にイグニッションキーが抜けなくなる車種があります。イグニッションキーが抜けなくなる車種には別売のキーロックリレーアダプターが必要です。詳しくは、ビータイム専用ハーネス車種別適合表をご覧ください。ただか、当社サービス部へお問い合わせください。
- ターボタイマー（スターターを含む）や盗難防止機との併用取付けはできません。

### ⚠ 危険

ビータイムは国産12VのAT車で、イグニッションキーのみでエンジンを始動することができる車に取付けできます。したがって、下記の車種にはビータイムを取付けないでください。

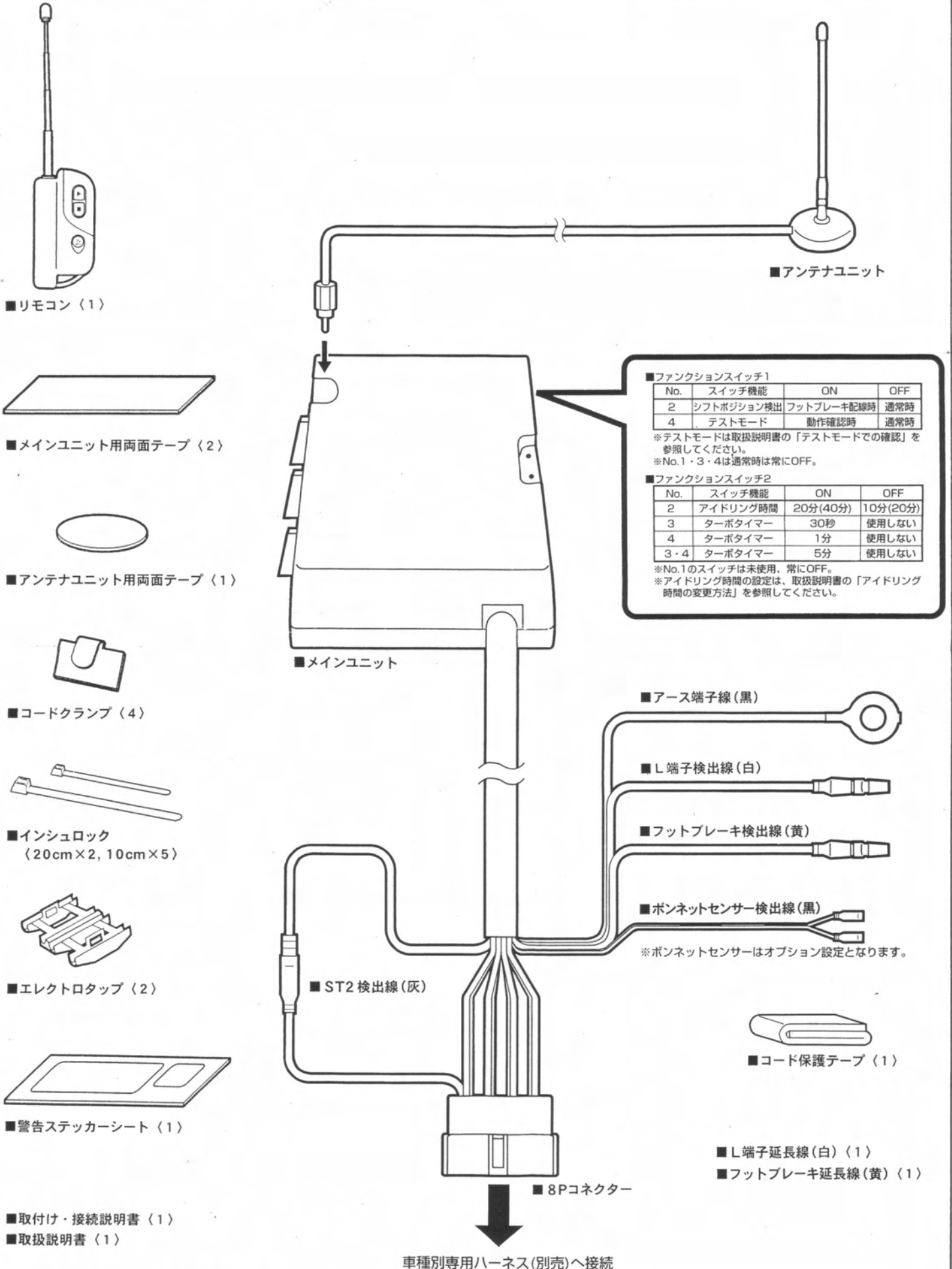
- エンジン始動直後、チャージランプが消えない車。  
(特に、寒い朝等エンジンが冷えている時に発生しやすい車。)
- 24V 車（寒冷地仕様などでバッテリーが2個付いている12V 車は取付けできます。)
- マニュアルミッション車
- エンジン始動の際にアクセルペダルの操作を必要とする車
- 輸入車

### ⚠ 注意

下記装置はビータイムを装着すると、正常に働かなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- キーレスエントリーシステムまたはワイヤレスドアロックシステム  
(リモコンでエンジンを停止してから、リモコンドアロックをご使用ください)
- セキュリティシステム（盗難防止装置）  
(セキュリティシステムをOFFにして本機をご使用ください。)
- オートポジションステアリング&シート  
(乗車時、リモコンでエンジンを停止してからイグニッションキーでエンジンを始動してください。レジェンドDPS装着車は、取付け時に解除しなければならないため、Be-959をお買い求めください。)
- オートライトコントロールシステム  
(降車時、オートライトスイッチをOFF にしてからイグニッションキーを抜いてください。)

# ●基本接続図とセット内容



■リモコン〈1〉

■メインユニット用両面テープ〈2〉

■アンテナユニット用両面テープ〈1〉

■コードクランプ〈4〉

■インシュロック  
〈20cm×2, 10cm×5〉

■エレクトロタップ〈2〉

■警告ステッカーシート〈1〉

■取付け・接続説明書〈1〉

■取扱説明書〈1〉

■アンテナユニット

■メインユニット

■ファンクションスイッチ1

No.	スイッチ機能	ON	OFF
2	シフトポジション検出	フットブレーキ配線時	通常時
4	テストモード	動作確認時	通常時

※テストモードは取扱説明書の「テストモードでの確認」を参照してください。  
※No.1・3・4は通常時は常にOFF。

■ファンクションスイッチ2

No.	スイッチ機能	ON	OFF
2	アイドリング時間	20分(40分)	10分(20分)
3	ターボタイマー	30秒	使用しない
4	ターボタイマー	1分	使用しない
3・4	ターボタイマー	5分	使用しない

※No.1のスイッチは未使用、常にOFF。  
※アイドリング時間の設定は、取扱説明書の「アイドリング時間の変更方法」を参照してください。

■アース端子線(黒)

■L端子検出線(白)

■フットブレーキ検出線(黄)

■ボンネットセンサー検出線(黒)

※ボンネットセンサーはオプション設定となります。

■コード保護テープ〈1〉

■L端子延長線(白)〈1〉

■フットブレーキ延長線(黄)〈1〉

■8Pコネクター

車種別専用ハーネス(別売)へ接続

※ 〈 〉 内の数字は個数を表わします。

# ●取付け・接続について

## ! 取付け・接続の前に

安全に作業をしていただくため取付ける前に、次の4つのことを必ず守ってください。

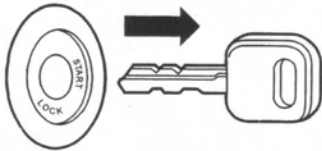
1 ATシフトレバーをパーキング(P)ポジションにします。



2 パーキングブレーキを確実にかけます。(フット式・サイド式)

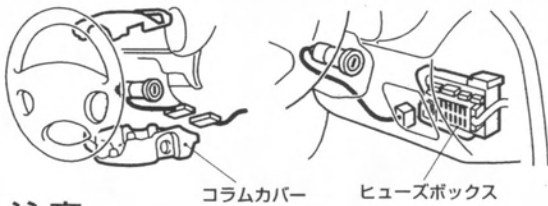


3 キーを抜きます。



## 1. 車種別専用ハーネスの接続

1 車のキーシリンダーから出ているコネクターを探す。



### ! 注意

コネクターの場所は、車種により異なります。

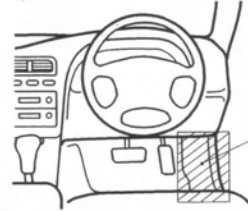
- ① キーシリンダー直付けタイプ
- ② キーシリンダーから10cm~20cmの場所にあるタイプ
- ③ ヒューズBOX、またはヒューズBOX付近にあるタイプ

2 車側のコネクターをはずし、はずしたコネクター間を専用ハーネスで接続する。



## 2. アース端子の取付け

1 メインユニットからでてくるアース端子(黒コード)を、塗装されていないボディまたはフレームのビスにしっかりと共締めします。



大半がこの部分に取り付けできます。

### ! 注意

- ・テスター等で、確実にアースがとれているか確認してください。
- ・アース端子とフレームの間に樹脂、塗装等があると、確実なアースがとれません。
- ・不適切な場所へアース端子を取付けると、リモコンの飛距離が短くなったり、その他トラブルの原因になります。

## 5. L端子配線の接続方法

リモコンスタートによるエンジン始動時、オルタネータのL端子信号により確実な始動判断を行なうことができます。

### ! 注意

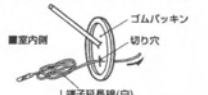
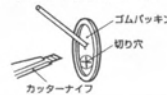
- ・L端子の基準電圧はイグニッションキーON時、エンジン始動前は“4V”以下、エンジン始動後は“6V”以上です。
- ・オルタネータのL端子配線をしないとエンジン始動できない車種があります。また、寒冷地ではオルタネータのL端子配線を接続し、バッテリーも大型のものに交換することをおすすめします。

1 ATシフトレバーをパーキング(P)にしてイグニッションキーを抜きます。

2 エンジンルームと室内の壁面にあるゴムパッキンなど、線が通る場所をさがします。

3 線が通るようにカッターナイフ等で切り穴を開けます。

4 L端子延長線(白)を図のように室内側から入れます。



5 車のL端子検出線まで、L端子延長線(白)を配線します。

6 車のL端子検出線とL端子延長線(白)を付属のエレクトロタップで接続します。



※エレクトロタップの使用法をご覧ください。

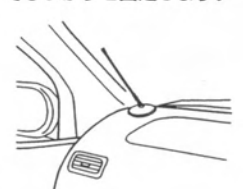
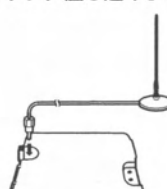
7 メインユニットから出ているL端子検出線(白)と、L端子延長線(白)を接続します。



## 6. アンテナユニットの取付け・配線

1 アンテナコードの端子を、メインユニットのアンテナジャックに差し込みます。

2 アンテナユニットをダッシュボード上に付属の両面テープでしっかりと固定します。



### ! 注意

- ・アンテナユニットは、視界の妨げにならない場所に取付けてください。
- ・両面テープを貼る際は、あらかじめ汚れや脂分をよくふきとってから貼ってください。

### 3. 専用ハーネスとメインユニットの接続

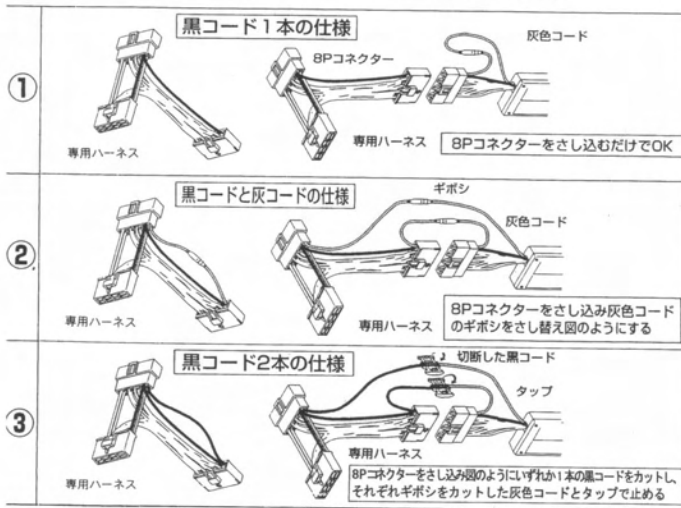
**1** 専用ハーネスの8Pコネクタと、メインユニットの8Pコネクタを接続します。

**2** 下記の図 ①・②・③から専用ハーネスの種類を確認して配線してください。

#### 注意

・図②・③の仕様の場合は必ずギボシ端子が、しっかりと接続されているかどうか確認してください。接続不良を起こしますと、車種によっては下記のようなトラブルの原因となります。

- エアコンが正常に作動しない。
- ATシフトストップ（安全機能）が作動しない。
- アイドリングが不安定になる。
- バッテリーが上がったり、オルタネーターが破損する。



### 7. メインユニットの取り付け

メインユニットの固定及び配線処理をする前に、テストモードでの確認と動作の確認をしてください。

※「テストモードでの確認」と「動作の確認」は取扱説明書を参照してください。

**1** 運転の妨げとならない場所に、付属の両面テープでしっかりと固定します。

(センターコンソール側面、アンダーカバー内側等)



#### 注意

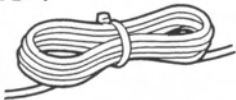
- ・以下のような場所への取付けは避けてください。
- エアコンやヒーターなどの熱風を受ける場所。
- 直射日光の当たる場所。
- 不安定な場所。

### 8. 配線処理について

#### 注意

・誤った配線処理を行なうと、後に本機の不具合や事故の原因となり危険です。したがって以下の項目は必ず行なってください。

■コード類は、余分な長さがあればインシュロック（10 cm）で結束してください。



■アンテナユニットのコードは、コードクランプに挟んで固定してください。



■アンダーカバー内へ収納する際、車の金属部（コラムシフトレバーの付け根、ステアリング可動部、ペダルのスプリング、その他鉄板等）に専用ハーネスやコード類が接触する場合は、その部分に必ずコード保護テープを貼ってください。



### 4. フットブレーキ配線の接続方法

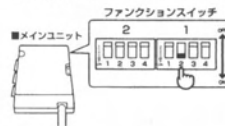
#### 注意

・アイドリング時間の「メモリー登録の変更」、リモコンの「IDコードの再登録」を行なう場合は、フットブレーキ配線が必要になります。

・下記に該当する車種で、フットブレーキ配線を行なわなかった場合、車の誤動作を招く恐れがありますので、必ずフットブレーキ配線を行なってください。

- トヨタ RV車、ワンボックス車、ディーゼル車、オートエアコン装着車
- 日産 全車（ディーゼル車含む）※但し、Y33系のシーマ、セドリック、グロリアのボイスナビゲーション（パードビュー）装着車は、パーキングブレーキ（ブレーキをかけた状態で“OV”、解除した状態で“12V”）配線を行なってください。
- 三菱 デリカ（スペースギア・スターワゴン）、GDI搭載車
- ホンダ レジェンド全車
- ピータイムでエンジン始動した時にセルが回り続ける車種
- エアバックなどの警告ランプが点灯する車種
- スターター作動時のアイドリング中、又はターボタイマー作動時のアフターアイドリング中に、ATシフトレバーをパーキング（P）から移動した場合エンジンがとまらない車種
- ATシフトレバーがパーキング（P）の位置で、リモコンスタート時にメインユニットエラーランプが点滅してしまい、エンジンが始動できない車種

**1** メインユニットのファンクションスイッチ1の②をONにします。

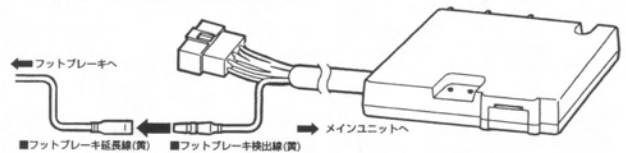


**2** フットブレーキを踏まない状態で“OV”、踏んだ状態で“12V”の線に付属のフットブレーキ延長線（黄）をエレクトロタップで接続します。



※エレクトロタップの使用方法をご覧ください。

**3** フットブレーキ延長線とフットブレーキ検出線のギボシ端子を接続します。



### 9. 「警告ステッカー」について

本機を取付けた車を第三者が使用及び整備する場合、安全にお使いいただくため付属の「警告ステッカー」を必ず貼り付けてください。

- 警告ステッカー（大）の貼り付け  
：ボンネット（ワンボックス車の場合エンジンルームカバー）を開けた時、エンジンの熱を直接受けない目立つ場所に貼り付けます。
- 警告ステッカー（小）の貼り付け  
：ボンネットオープナー（ワンボックス車の場合エンジンカバーフック）付近に貼り付けます。



### エレクトロタップの使用方法

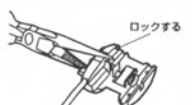
**1** タップを図のように見ます。



**2** ストッパー付コード溝に本機のコードを挟みます。



**3** プライヤー等でロックします。



**4** ストッパー無しコード溝に車側のコードを挟みます。



**5** プライヤー等でロックします。



**6** 絶縁テープを巻きまします。

